

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	明日の社会を担う生徒の育成				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
創立20周年を終え、新たな一歩を突き進むために、「進化と改善」を念頭におき、生徒の自主性を伸ばし、主体性を育む教育活動をさらに進化・発展させる。	1「賢い生徒」の育成	生涯にわたって主体的に学ぶ資質・能力・態度を育成する。			
	2「優しい生徒」の育成	豊かな心を持ち社会に貢献する資質・能力・態度を育成する。			
	3「逞しい生徒」の育成	課題解決に向け挑戦し続ける資質・能力・態度を育成する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	確かな学力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践する。 教育課程及び観点別評価の在り方について検証と改善を図る。 授業アンケートを活用し、生徒が主体的に学ぶ授業改善を推進する。	A B A	A	1人ひとりの進路希望が叶えられるよう、教育課程の見直しに引き続き取り組む。多様な生徒に対する学びの保障の方法についても検討を重ねる。 授業内外における1人1台端末の使用ルールの確認等、引き続き授業規律の維持に努める。また、ICT機器のより良い利活用の為の職員研修の充実を図る。
	ICTの活用	一人一台学習端末を活用した学習活動に積極的に取り組む。 職員研修を実施し、ICT機器の活用方法等について理解を深める。 校務支援システム等による校務の効率化・デジタル化を推進する。	A A A		
生徒部	教育相談の充実	教育相談の機会を充実させ、生徒理解に基づく組織的な生徒指導を行う。 いじめの未然防止・早期発見・対応に向け、情報共有と組織的対応を図る。 多様性を認め合い、互いの人権を尊重する人権教育を充実させる。	A B B	A	生徒が主体的に学校行事や日常の生徒会活動に取り組めるように支援することで、リーダーシップの育成や規範意識の醸成を図る。 教育相談週間の実施方法やアンケート内容を見直し、生徒理解に基づいた教育相談体制の更なる充実を図る。
	規範意識の育成	基本的な生活習慣確立のため、他分掌と連携し早期に対応する。 規範意識の育成に向け、保護者と連携して継続的な生活指導を行う。 18歳成年を踏まえ、生徒会や部活動を中心に生徒の主体的活動を促す。	B A A		
進路部	進路意識の向上	生徒・保護者への進路説明会を実施し、必要な情報提供を行う。 新課程入試に対応した進路指導の在り方について検証・改善を図る。 外部機関とも連携し、公務員及び民間就職指導の充実を図る。	A B A	A	新課程生徒への「情報」課外を3年次に新設する。模擬試験の有効活用について、検討資料や検討会の更なる充実を図りたい。 手引きの改善・作成、学年教員との実施内容の共有を更に充実させるとともに、諸活動の成果を校内校外に発信する手段を検討していきたい。
	探究活動の充実	1年:「産業社会と人間」の時間を活用し、調査研究や体験活動を行う。 2年:「総合的な探究の時間」を活用し、希望進路の設定に取り組む。 3年:「総合的な探究の時間」を活用し、進路希望に応じた探究活動を行う。	B B A		
企画部	広報活動の充実	各種広報物を作成し、掲示や配布により学校の魅力を発信する。 オープンスクールの実施等により「選ばれる学校づくり」を目指す。 中学校訪問や出前授業等、地域との連携を深める活動を積極的に行う。	A B A	A	オープンスクールや各種広報物の内容の充実、中学校を訪問しての学校説明を通して、魅力をより効果的に伝えられる広報活動を工夫する。 PTA理事会、学年合同委員会等をはじめとした、PTA・同窓会・地域等との情報共有を密にする機会を設け、連携を強化する。
	PTA・同窓会等との連携	学校教育目標や指導方針についてPTAとの共有を図る。 PTA・同窓会と協力し、諸行事を円滑に実施する。 教育活動の充実のため、関係機関との連絡・調整・連携を図る。	A A A		
学年	主体性・社会性の育成	授業規律を確立し、「主体的・対話的で深い学び」を行う学習環境を整える。 基本的な生活習慣を整えさせ、家庭学習習慣を身に付けさせる。 日常的なあいさつや言葉遣い指導を通して社会性を身に付けさせる。	B A B	A	3年間の継続的な指導と意識付けを組織的におこない、学級・学年、そして学校全体のより良い気風の熟成を今後もはかっていく。 養護教諭やSC、場合によってはSSWと連携し、関係職員同士が情報共有を密におこなうことで様々な課題を抱えた生徒へ今後もしっかりと対応していく。
	人権感覚の醸成	ホーモルーム活動や学校行事を通じて、望ましい人間関係の構築を図る。 人権教育特設授業を計画的に行い、人権に関する知的理解を促す。 言語環境・学習環境を整え、いじめの未然防止に努める。	B A A		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・生徒や保護者の期待に応えるべく教育課程の編成や指導方法の改善を今後も進めてもらいたい。 ・個々の先生方の力量を高める研修等を充実させ、生徒が本校を選んでよかったと実感できる教育活動を行ってほしい。
A	・道徳教育を推進するとともに教育相談を充実させ、いじめを生まない学校づくりを進めてほしい。 ・様々な危険から身を守るよう、規範意識の育成とともに安全教育、防犯・防災教育にも力を注いでほしい。
A	・キャリア教育を充実させ、多様な生徒の進路希望に対応できる進路学習をさらに進めてほしい。 ・生徒自身が視野を広げ、自ら考え、論理的に判断し、わかりやすく表現する力を育てる機会を増やしてほしい。
A	・青豊生としての誇りが持てるよう、生徒の善行等を積極的に広報してほしい。 ・学校案内パンフレットなどを工夫し、総合学科の魅力を発信していくことが必要である。 ・PTA、同窓会、地域と学校が連携する機会を積極的につくってもらいたい。
A	・自ら判断し行動するきっかけを与え、生徒の自主性を育ててほしい。 ・個々の生徒の実態に応じ、生徒理解に基づく生徒指導を行ってほしい。
評価項目以外のものに関する意見	
地域に根ざした教育活動を実践できており、活気を感じている。今後も学校の魅力発信を期待する。	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・教員の生徒指導力、教科指導力、進路指導力の一層の向上(個に応じた指導の充実、指導の質の向上に努める。)
- ・生徒の学ぶ意欲の一層の向上のためのICT機器の効果的な利活用の推進
- ・教職員のチーム力向上(年次・分掌等の連携を強化し、学校全体の組織的な教育力の向上を図る。)
- ・人権尊重意識の向上(多様性の尊重と理解、自尊感情・自己肯定感の向上、豊かな人間関係づくりに努める。)
- ・教育相談体制の充実と情報共有による組織的な対応力の強化